

# 第6回中京都市圏パーソントリップ調査

## からみた名古屋市の交通状況 Vol.1

2026.3.31

住宅都市局交通企画・モビリティ都市推進課  
名古屋都市センター調査課  
総務局統計課

### 概要

- 名古屋市では、昭和46年から10年毎に、国土交通省・愛知県・岐阜県・三重県と共同で、中京都市圏を対象としたパーソントリップ調査（PT調査）を実施しており、令和4年には第6回目の調査が実施されました。
- 名古屋市に関する調査結果について、数回に分けて紹介したいと思います。
- 今回は、第1回目のため、基礎的なデータを掲載しています。

### パーソントリップ調査とは

- パーソントリップ調査（パーソン=人、トリップ=移動）とは、対象地域の居住者の「性・年齢」「職業」「居住地」などの個人属性とともに、「出発地・目的地」「移動目的」「移動時刻」「交通手段」等の移動特性を抽出調査し、地域全体の全ての人の1日の移動量を捉える交通基礎調査です。
- この調査は、都市圏全体の人々の移動について、総合的に把握できる唯一の調査で、交通計画だけでなく、防災・環境など様々な分野にも活用されます。

### トリップとは

- 人がある目的をもって「ある地点」から「ある地点」に移動するときの動きのことで、目的地が変わるごとに別のトリップとして数えます。
- 目的は大まかに、出勤、登校、自由、業務、帰宅の5つに区分されます。

### 交通手段とは

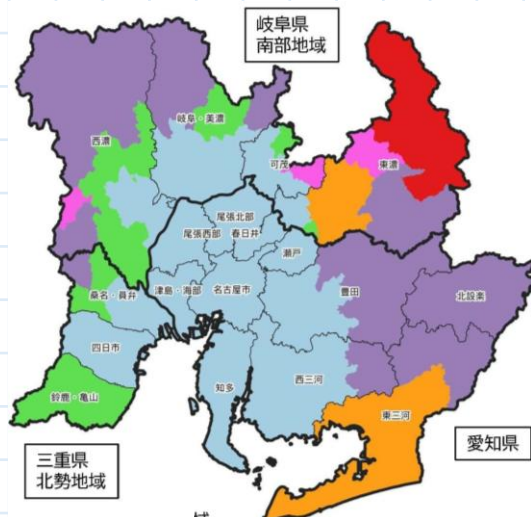
- 交通手段は、鉄道、バス、自動車、二輪車、徒歩等があり、1つのトリップで複数の交通手段を利用する場合は、主な交通手段を代表交通手段とします。
- 代表交通手段は、鉄道→バス→自動車→二輪車→徒歩、の順で優先順位が高いものとしています。

### 調査圏域

- 中京都市圏の3県（愛知県、岐阜県南部、三重県北勢地域）を対象に実施。
- 名古屋市では、約2.8万世帯から回答を回収し、有効サンプル数は約5.0万人。

#### 凡例

- 第1回調査圏域(S46)
- 第2回調査で新たに加わった圏域(S56)
- 第3回調査で新たに加わった圏域(H3)
- 第4回調査で新たに加わった圏域(H13)
- 第5回調査で新たに加わった圏域(H23)
- 第6回調査で新たに加わった圏域(R4)

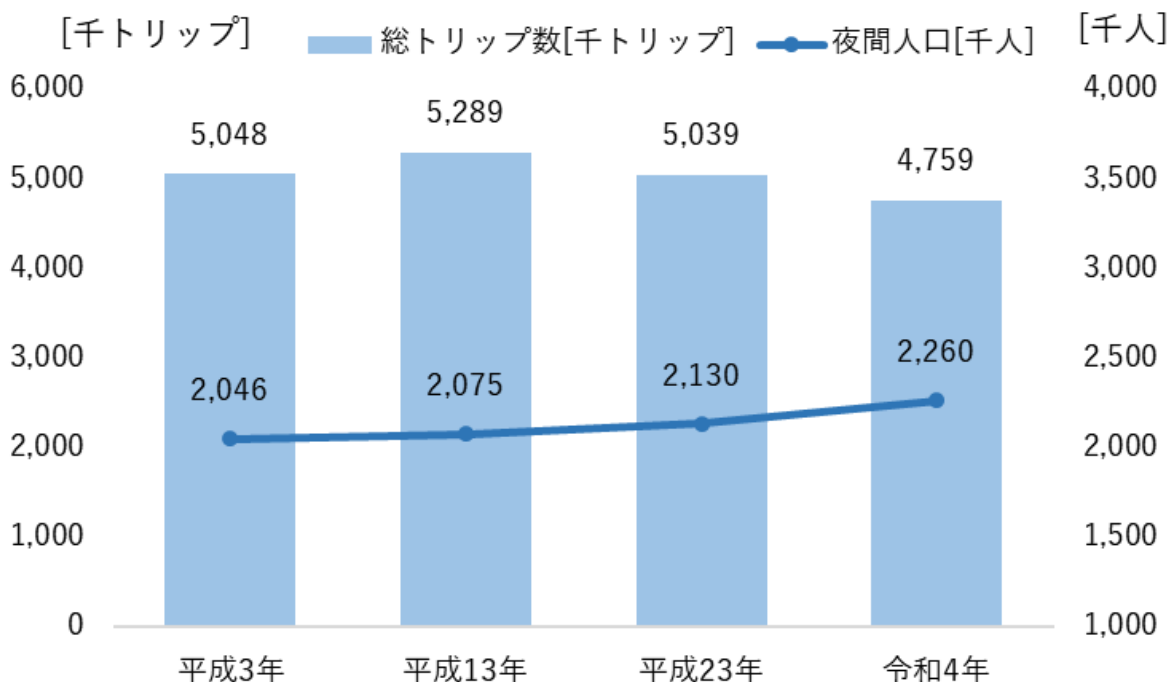


ここでは、名古屋市内に着目した調査結果を掲載します。  
中京都市圏全体の結果については、  
中京都市圏総合都市交通計画協議会HPをご参照ください。



## 名古屋市民の総トリップ数の推移

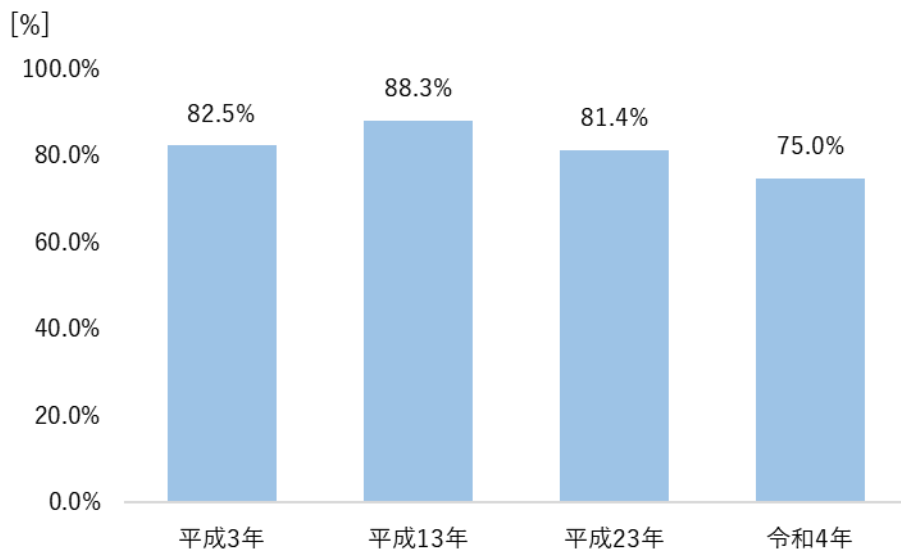
- 名古屋市民の総トリップ数（移動量）について、平成3年からの推移を見ました。
- 名古屋市の夜間人口※は増加傾向にある中、総トリップ数は、平成13年をピークに減少傾向となっています。
- 総トリップ数は、平成23年から令和4年にかけて、約6%減少しています。



※PT調査で使用している夜間人口は5歳以上で外国人は除いています

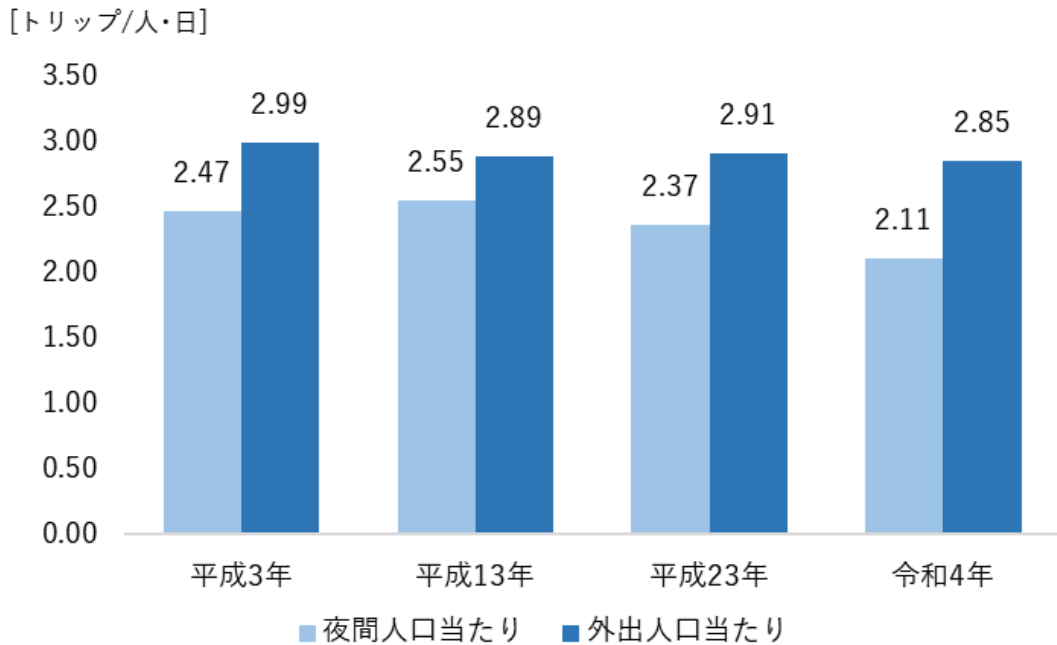
## 名古屋市民の外出率の推移

- 名古屋市民の外出率（調査日に外出した人の割合）について、平成3年からの推移を見ました。
- 令和4年の結果が、最も低い値となっており、初めて80%を下回りました。

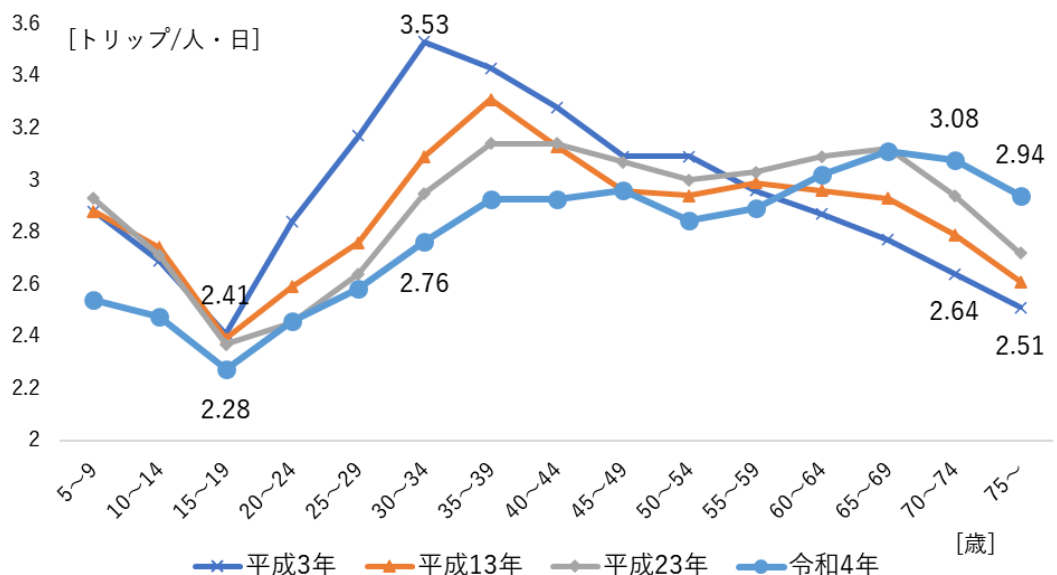


## 名古屋市民の1人1日当たり平均トリップ数の推移

- 1人1日当たりの平均トリップ数について、平成3年からの推移を見てみました。
- 令和4年の結果が、夜間人口当たり、外出人口当たりともに最も低い値となっています。

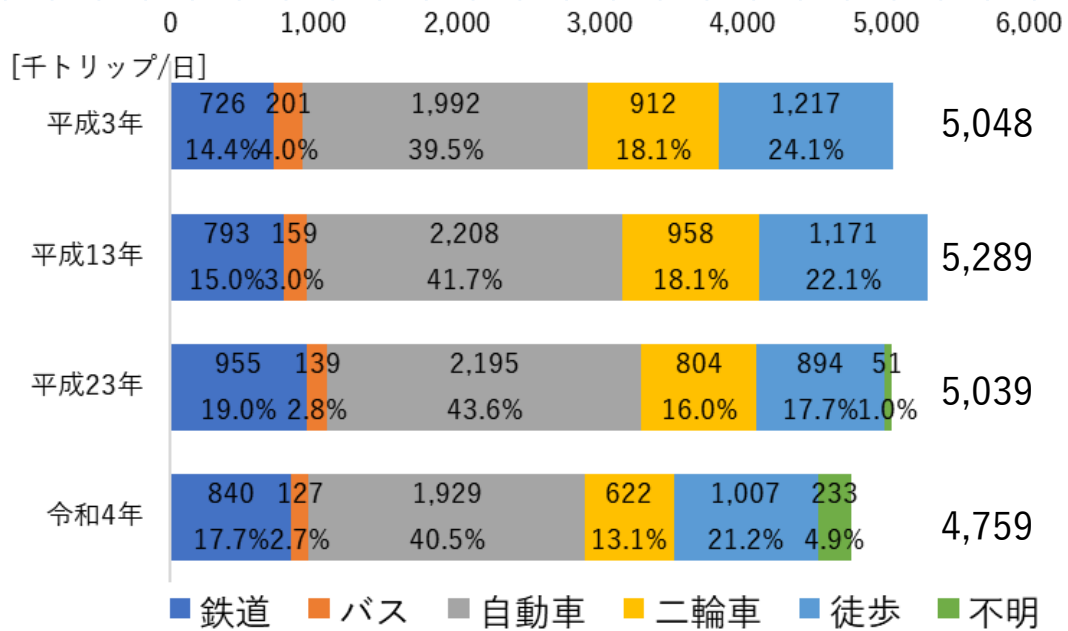


- 年齢別に外出している人の1日当たり平均トリップ数について、平成3年からの推移を見てみました。
- 15～19歳をはじめとした若年層のトリップ数が少ないです。
- 過去からの推移を見ると、特に30～34歳で大きく減少している一方で、70歳以上では大きく増加しています。



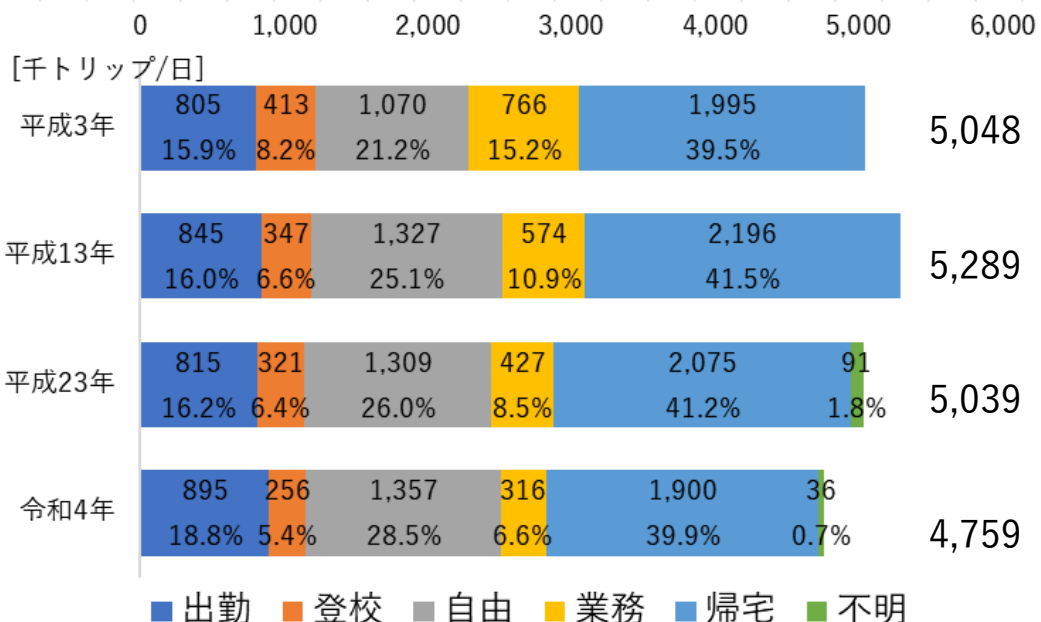
## 名古屋市民の代表交通手段別トリップ数（構成比）の推移

- 名古屋市民のトリップ数を代表交通手段別に、平成3年からの推移を見てみました。
- 増加傾向となっていた鉄道のトリップ数及び割合が、令和4年より減少に転じました。
- 自動車のトリップ割合は、令和4年より減少に転じました。
- 徒歩のトリップ数及び割合が、令和4年より増加に転じました。



## 名古屋市民の目的別トリップ数（構成比）の推移

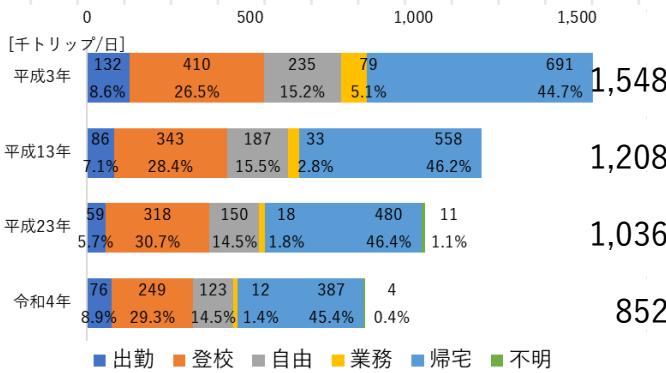
- 名古屋市民のトリップ数を目的別に、平成3年からの推移を見てみました。
- 平成23年から令和4年にかけて、出勤や自由目的が増加し、登校や業務目的が減少しています。
- 業務目的トリップが減少し続けており、令和4年のトリップ数は平成3年の約4割となっています。



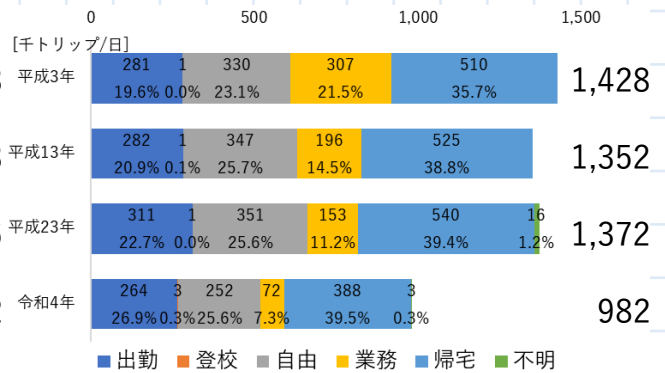
# 名古屋市民の年齢層別目的別トリップ数（構成比）の推移

- 前ページで名古屋市民のトリップ数を目的別にお示しましたが、出勤目的の増加、登校や業務目的の減少に関する深掘りをするため、年齢層別に見てみました。

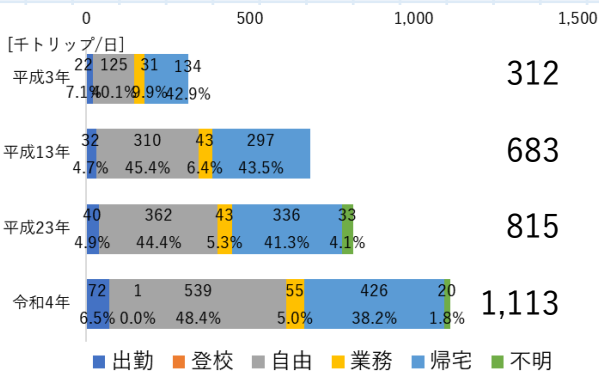
## 若年層「5-24歳」



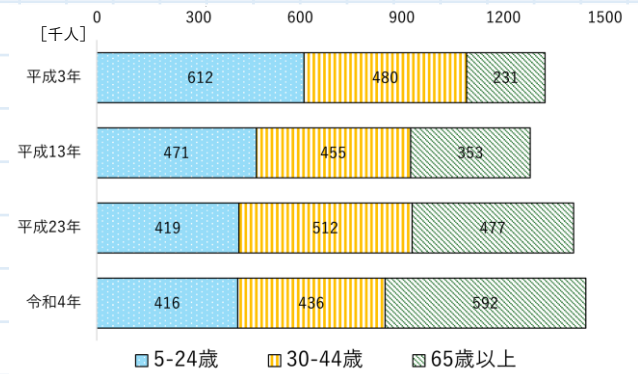
## 働き世代「30-44歳」



## 高齢者「65歳以上」



## 各年齢層の平成3年～令和4年の人口 ※10月1日時点



(注) 国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計した数値

## 【年齢層別目的別トリップ数（構成比）】

- 若年層として「5～24歳」に着目すると、登校目的が減少し続けています。
- 働き世代として「30～44歳」に着目すると、業務目的が減少し続けています。
- 高齢者として「65歳以上」に着目すると、出勤や自由目的が増加し続けています。

## 【年齢層別人口】

- 若年層「5～24歳」は、平成3年の約61.2万人から減少を続け、令和4年には約41.6万人となっています。
- 働き世代「30～44歳」は、平成3年の約48.0万人から減少し、いったん平成23年に増加するも、令和4年には再び減少し約43.6万人となっています。
- 高齢者「65歳以上」は、平成3年には約23.1万人だったのが、令和4年には約59.2万人へと2.5倍以上に増加しています。

## 【考察】

- 若年層の登校目的トリップ数の減少は少子化が一因と考えられます。
- 働き世代の業務目的トリップ数の減少は、人口要因以上に、オンライン会議の普及等、社会的な影響が大きいと考えられます。
- 高齢者のトリップ数の増加は、高齢化が一因と考えられます。

第6回中京都市圏パーソントリップ調査からみた名古屋市の交通状況に関するレポートをご覧ください。誠にありがとうございました。今後の参考とさせていただきます。ご意見・ご感想等がございましたら、二次元バーコードよりお願いいたします。

